

目指す学校像	「愛」があふれる教育の推進 ～信頼される学校運営・自律できる児童の育成～
--------	--------------------------------------

重点目標	1 学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善と家庭学習の推進 2 教育支援・相談体制の充実と安心・安全な学校運営 3 コミュニティ・スクールとしての成長、進化を通して、地域とともにある学校運営の推進 4 信頼される教職員育成研修の充実と働き方改革の推進
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学校運営協議会による評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語は、知識・技能に関する設問では、5ポイント低く、思考・判断・表現に関する設問では、8ポイント低かった。また、算数は、知識・技能に関する設問では、4ポイント低く、思考・判断・表現に関する設問では、5ポイント低かった。 ○市の学習状況調査では、学習に対する関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合は市平均とほぼ同程度である。 ○家庭学習が習慣化できておらず、進んで家庭学習を行うことが苦手な児童が多い。 ○自習の時間、進んでドリルパークに取り組む児童が多い。 (課題) ○学習への関心を高め、家庭学習を含め、進んで学習に取り組めるようにすることが課題である。 ○個に応じた指導等を通して、達成感や充実感を味わえるようにすることともに、基礎基本の確実に定着させることが課題である。	・学びの自律化に向けた指導の工夫や情報端末の活用 ・基礎学力の確実な定着に向けた家庭学習の充実及び学校と家庭との連携	①授業展開を工夫して、児童一人ひとりが主体的に課題設定や自力解決をして学習できるようにする。 ②全国学力・学習状況調査について、タブレット端末を用いて、児童が自己採点を行い、その結果から児童が自らの学習状況を把握できるようにする。 ③全国及び市の学習状況調査の最新の結果を基に、読解力に関する状況を分析するとともに、市教委による学力向上カウンセリング研修を受けることで、より効果的な手立てを設定し、学校全体で児童の読解力向上を図る。	①学校評価児童アンケートにおいて、「自分は意欲的に学習に取り組んでいる」と回答する児童の割合が93%以上となったか。 ②「児童が自己採点の結果をもとに、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、達成に向けて行動できた」と回答する教員の割合が80%以上となったか。 ③「学習状況調査結果の分析結果や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを学年ごとに設定することができた」と回答する教員の割合が80%以上となったか。また、国語・算数の知識・技能に関する問題について、正答率を80%以上となったか。	①89.5% ・目標に達しなかったが、前年度より1%向上した。 ②66.7% ・目標に達しなかったが、自己採点の結果から自分自身の課題を認識して学習に取り組む姿勢がいくつか見られた。 ③50% ・目標に達しなかった。3学期に学力向上カウンセリングを実施し、いくつかの課題が見受けられた。だが、実施時期が3学期だったため、課題を踏まえた実践的な指導に取り組む場面が多くなかった。 72.7% ・目標には達しなかったが、確かな学力が身に付くよう、各学級で日々の授業中や朝自習の時間等で基礎基本を大切に指導に取り組んできた。	B	①今後も意欲的に学習に取り組めるような、導入や展開を行っていく。 ②テストの見直しやドリルでできなかった箇所をできるようにする指導に努めるとともに、児童が、自らを振り返り自分なりの学力を向上させる取組を考え実行できるようにする。 ③校内行事と照らし合わせ、学力向上カウンセリングを可能であれば2学期に実施し、課題を意識して学習・生活指導を行っていく。今後は、これまでの指導を続けつつ、基礎基本を「活かす力」が向上するよう、指導の工夫改善を目指す。	・学校評価は、栄小だけではなく、他の学校と比較できるとよい。 ・学力の低さが心配。授業をしっかり聞いていれば一定の学力が見につくことができるよう、授業の質を高めてほしい。 ・家庭学習が困難な子どもがいるので、学校での学習の習得が大切。 ・どんな分野でもいいから1つがんばれると、それがきっかけで伸びていく。
2	(現状) ○学校評価児童アンケート「自分は、楽しく学校生活を送っている」項目で、肯定的な回答をした児童の割合は、94.3%であった。(前年度比+0.1%) ○学校評価保護者アンケート「おさんは、楽しく学校生活を送っている」項目で、肯定的な回答をした保護者の割合は、93.8%であった。(前年度比-1.1%) (課題) ○学校評価児童アンケート「先生たちは、悩んだ時や困った時に話を聞いてくれる」項目で、肯定的な回答93%に対して、保護者アンケート「学校は、子どものことについて連絡・相談したことに適切に対応している」項目で、肯定的な回答86%にとどまった。	・(児童にとって)通いたい学校 ・(保護者や地域にとって)通わせたい学校	①児童向けアンケートや面談等の記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。 ②教育相談部会で、蓄積した情報を基に児童の状況を細やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。	①学校評価児童・保護者アンケート「楽しく学校生活を送っている」項目で、ともに肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②学校評価児童・保護者アンケート「学校は、相談したことに適切に対応している」項目で、ともに肯定的な回答の割合が90%以上となったか。	①児童94.7%・保護者93.9% ・ともに目標に達した。また、校長室前の意見ポストは述べ約120通に達し、その都度対応できた。 ②児童95.6%・保護者84.5% ・児童の方は目標に達したが、保護者の方は目標に達しなかった。	A	①今後も児童向けアンケートや面談等の記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握することで、児童にとって通いたい学校を目指す。 ②相談・意見を受けた際は、教職員が丁寧に対応するとともに、SSW・SCとも連携を図ることで、保護者にとって通わせたい学校を目指す。	・以前は保護者の情報交換の場があったが、今はできていない。出身幼稚園のグループはいまだにあるが、小学校でのグループはない。地域の習い事の情報もないので、コミュニティが作りにくい。PTAが情報を収集して発信するのはどうか。 ・不登校の保護者にも悩みがあるので、保護者間での情報共有する場があるとよい。 ・安全管理について、学校に不審者が入った場合に備えて、教員と児童が一緒になって訓練するとよい。
3	(現状) ○昨年度、学校運営協議会準備委員会において、「地域とのつながりを深め、地域とともにある学校」を目指し、「あいさつ(コミュニケーション能力)、円滑な人間関係、基本的な生活習慣、意欲、国語力、地域愛着」を身に付けた児童の育成について熟議を積み重ねた。 ○さくら草栽培、お雛体験活動、読み聞かせ活動、防犯ボランティア等、地域の資源力の活用を通して、児童の健全育成を図っている。 (課題) ○昨年度に学校運営協議会準備委員会に共有した内容の具現化を目指すとともに、児童に育てたい力やそのための方策についてさらに熟議し、学校、家庭、地域が一体となった取組を行っていく。 ○新型コロナウイルス対策を図りながら、地域資源を活用した活動を実施する。	・学校運営協議会を始め、地域の意向を可能な限り反映、児童の姿を地域全体で共有するための教育活動公開及び地域資源(人材等)を活用した教育活動の推進	①学校運営協議会の内容や金管バンド、SSN、防犯ボランティア、教育ボランティア(さくら草栽培・読み聞かせ・お雛活動等)の情報や、学校だよりや学校WEBページで発信し、目指す学校像や児童像を広く、家庭、地域と共有できるようにする。 ②学校行事等について、学校に関わる人々が参観できるようにし、学校の教育活動や児童の成長に対する関心を高める。 ③学校評価に係るアンケートを実施し、児童の自律につながるコミュニティ・スクールへと成長を図るためのプランを策定する。	①学校評価保護者アンケート「学校は、家庭への連絡や情報公開を適切に行っている」項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 また、学校評価教職員アンケート「学校、学年だよりの発行や学校Webページ等は、主として保護者を対象に適切に発行し、情報の伝達が適切に行われたか」の項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②学校評価教職員アンケート「授業参観や学校公開、学校行事等を通して学校を十分に公開しているか」の項目の肯定的な回答の割合が95%以上となったか。 ③学校評価教職員アンケート「保護者や地域住民から寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応しているか」の項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。	①保護者94.2%・教職員97% ・ともに目標値に達した。また、地域の行事等を新たに学校WEBページにアップしたり、学校の各種ボランティアさん方を掲示コーナーに顔写真をいれて掲示したりした。 ②100% ・目標値に達した。また、教室の参観人数を分散するため授業参観を3分割にしたり、体育館で学年発表会等を行ったりして実施した。 ③100% ・学校運営協議会のご意見より、PTA会長が新入学生児童保護者に、スマホの持たせ方についての講演を行った。また、学校の関係者にボランティアを募集し、人材バンクを活用し、児童の賞状名前書きを依頼した。さらに、学校WEBページに地域行事を掲載したり、親子火花活動の実施等を新規に行ったりした。	A	①今後も学校だよりや学校WEBページ、安心メールを活用し、学校の取組情報を発信していく。 ②学校公開日や運動会、金管バンドコンサート等、地域の方々にも公開していく。 ③KDDスマホ・タブレット安全教室を1学期に実施予定(5年生)であり、保護者にも参加してもらい、家庭での正しい使い方への啓発を図る。また、児童や保護者が地域のかかわりが強化できるように、挨拶運動や地域行事への参加の呼びかけ等を行ったり、学校ボランティアの方への感謝の会を行ったりして、学校との連携を深めていく。	・地域で子どもを育てるとよく聞かすが、子供会がない自治会はどうにかかわっていくかが難しい。何かイベントをやる場合、学校とPTAが連携して実施していきたい。 ・公民館は学びの施設。ぜひもっと学校・PTA・地域と連携していきたい。 ・50周年記念式典がとても心に残った。 ・学校の助けとなるPTAだが、負担が多くなるかと非会員になる人も増えていくのではないかと。
4	(現状) ・ICTの活用方法等(研修)を通して、教師の指導力向上を図っている。 ・服務研修を計画的に実施し、信頼される学校運営に努めている。 ・働き方改革を推進し、効果英効率的な学校運営に努めている。 (課題) ①ICT活用等の学習指導や生徒指導等について、教員間で取組の差が見られる。誰もが学び続けることができる職場環境づくりが求められる。 ②教職員の事件事故0を目指す。 ③幅広く情報を収集し、教職員の意向を反映しながら、業務改善ならびに効率的で効果的な取組や対応が求められている。	・(教職員にとって)勤務したい学校 ・信頼される教職員を目指す、指導力向上研修や服務研修の実施 ・効果的、効率的な取組や対応による働き方改革の推進	①ICTの活用方法について、校内研修を行う。 ②学習指導(授業改善)や生徒指導、教育相談(児童・保護者対応)について、事例研修等を通じた校内研修を行う。 ③学期に1回服務研修を実施し、随時指導伝達を行う。 ④学期に1回を目安に、教職員から具体的な働き方改革としての取組や対応について意向を集約し、迅速・適切に対応する。	①学校評価教職員アンケート「日常的にICTを活用状況(活用)したか」の項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②自らの目標に向けて授業改善や適切な児童・保護者対応の振り返りにおいて、肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ③3回の服務研修や随時指導伝達(危機管理意識の高揚)後の定期的な服務に関するチェックリストで、肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ④学校評価教職員アンケート「働き方改革に関する取組」において、肯定的な回答の割合が90%以上となったか。	①95.5% ・研修を通して指導スキルが向上できた。 ②100% ・生徒指導委員会やサポート委員会等で事例研修会の実施、また学年会等で組織的に適切な対応を図ることができた。 ③90.9% ・年3回の服務研修の実施、新聞記事等による日常の指導を行い、危機管理意識を高揚させることができた。 ④71% ・職集や会議の持ち方、ボランティア活用、勤務時間(給食調理)等、教職員や学校運営協議会の意向の反映に努めたが、産休代替不在の影響による教職員の負担が大きかった。	B	①教員間でICT活用法を共有する機会(情報部会)を月1回定期的に設定することを始め、今後も校内研修を通して教員の指導力向上を目指す。 ②臨採、新任が増員される予定であり、互いに高められる場(生徒指導・サポート委員会・研修・職員会議等)において事例研修等を有意義に実施しながら、教師力の向上を目指す。 ③引き続き服務に関する取組を行い、信頼される学校運営を目指す。 ④教職員自らが業務改善の具体策を考え、その意向を可能な限り反映させる。校務分掌組織や放課後の会議設定を工夫改善する。PTAへ新たな取組の協力を求めていく。	・学校の教員不足は深刻だが、レベルが落ちてほしくない。 ・学校の人手不足はかなり深刻。教員に余裕を持った指導ができなくなってしまう。

